

回答・元玉川大学教職サポートルーム客員教授 峯岸 誠

第4回 情報共有と研究授業



学校では、「共通理解」とか「情報共有」とかという言葉がしばしば聞かれます。社会科の学習指導ではどのように考えたらよいのでしょうか。



(1) 情報共有の必要性

「『方位』と『方角』は同じなの、違うの。」そのような素朴な疑問をあなたはどのように解きほぐしますか。私が教員になったころには「それはね…」と蘊蓄をかたむけてくれる先輩がいました。今はどうでしょう。

最近の中学校の教員の年齢構成は全国的には、40歳未満が36.4%（平成25年10月 文部科学省）、東京都の公立中学校は43.7%（平成27年5月 東京都教育委員会）になっています。若返りの傾向はまだ続くとされます。

このようななかで、教職の専門性をみがき、指導内容の理解を深め、指導技術を工夫するためには個人の努力も必要ですが、先輩から指導される機会が減ったからこそ、研修での教員同士の協働的な学びがより効果的です。

教員の研修について教育公務員特例法では次のように示しています。

第21条 ① 教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない。
② 教育公務員の任命権者は、教育公務員の研修について、それに要する施設、研修を奨励するための方途その他研修に関する計画を樹立し、その実施に努めなければならない。
第22条 ① 教育公務員には、研修を受ける機会が与えられなければならない。
② 教員は、授業に支障のない限り、本属長の承認を受けて、勤務場所を離れて研修を行うことができる。
③ 教育公務員は、任命権者の定めるところにより、現職のままで、長期にわたる研修を受けることができる。

(2) 研修の場としての研究授業

研修会は主催者によって学校や教育委員会、教育研究会、民間の研究会などさまざまです。内容も講演やワークショップ、研究授業（公開授業）などがあります。ここでは、校内や市区町村教育研究会での研究授業に参加するさいの留意点を中心に考えてみましょう。

1 事前に準備しましょう

- ① 対象授業の教科書の該当部分を読みこみましょう。そして、私ならこのように指導するというイメージをもちましょう。また、内容や方法などの疑問をまとめましょう。
- ② 授業観察の視点をもちましょう。研究授業では主題が設定されています。主題についての自分の考えとあわせて自分の実践を整理してみましょう。

また、教科書・地図帳の扱い、発問や指名、板書、教材・機器の扱い、教材提示の機会などさまざまな指導技術的なことも考えられます。研究授業にのぞんで何を中心に観察するかあらかじめ考えておきましょう。

- ③ 学習指導案を熟読しましょう。校内研修会ではあらかじめ配布されます。しかし、校外の場合は当日配布が多くみられます。早めに会場におもむくよう心がけましょう。
- ④ 観察記録をとる準備をしましょう。私は、A3判2つ折のクリップファイルを使っています。右にメモ用紙、左に学習指導案をはさみます。筆記用具はシャープペンシル（2B）とマーカー、赤のボールペンです。最近は、スマートフォンで画像記録をとる方もいますが、事前の許可が必要です。

以上のような準備をして、授業の開始前に教室に入りましょう。

2 目的を定めて授業を観察しましょう

- ① 観察する場所を確保しましょう。ほぼ正

方形の教室全体を見わたせる位置はどこでしょうか。後方の左右いずれかです。前方の入り口は、生徒や他の参観者の視線をさえぎることになり、好ましくありません。

また、研究授業は立って参観するもので、それが授業者への礼儀と考えます。

- ② 観察する生徒やグループを特定しましょう。全体を見ていると活動や発言、つぶやきを見落としたり、聞きのがしたりします。
- ③ 観察する視点を意識しましょう。主題とのかかわりはもちろんです。指導技術についても学ぶことが多くあります。
- ④ グループ活動、とくにグループ内での話し合い活動が増えています。そこでは、グループの編成（人数、男女比、座席配置など）、話し合いの主題の提示、指示の仕方、記録のとらせ方、発表のさせ方などに注目してみましょう。観察するさいには、話し合いを傾聴することに心がけ、間違っても話しかけたりしないようにしましょう。
- ⑤ 観察記録をとりましょう。教師の発問、板書、生徒の発言や発表など気のついたことはその場でメモしましょう。

3 積極的に授業研究会に参加しましょう

研究授業のあとには授業研究会が開かれます。授業のふりかえりである授業研究会に参加して初めて、成果が得られ、情報の共有化がはかられます。

多くの場合、研究協議のあとに、指導講師の講評や講演があります。そのため、限られた時間になりますが、研究授業からの学びに謝意をあらわし、疑問をただみましょう。

指導講師の講評や講演は記録をとりましょう。私はB6判の情報カード(図)を使っています。あとで分類整理するさいに便利です。

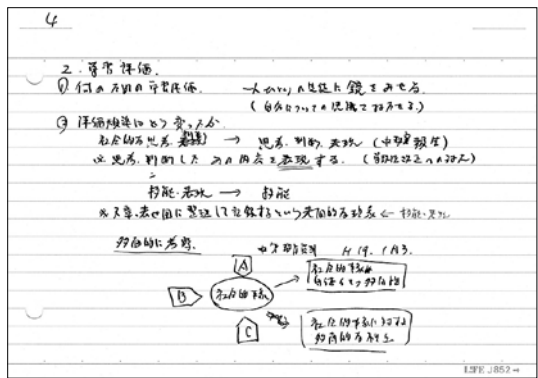


図 B6判の情報カード

(3) 開かれた情報共有の場

社会科専門の研究会組織としては全国中学校社会科教育研究会を頂点に、関東や九州などのブロック中学校社会科教育研究会、さらに都道府県単位の中学校社会科教育研究会があります。これらの研究会では毎年1回、もちまわりで研究大会を開催しています。開催都道府県は数年かけて大会の研究主題の設定や理論研究、検証授業などに取り組んでいます。その過程で大学の研究者や文部科学省の教科調査官などの指導を受けることができます。

また、まったく任意につくられた研究会もあります。「社会科が何よりも好き」という先輩諸先生が中心となり定例会を開き、講演やワークショップ、巡検などが行われています。地理や歴史、公民、経済教育、法教育、主権者教育などの内容に特化した研究会もあります。中学校の教員だけでなく高校の教員や社会科教員志望の学生の参加もあります。

さらに、各社発行の授業支援冊子も活用しましょう。

以上述べた研究会は、活動が勤務時間後や土・日曜日です。しかし、社会科についての情報共有、自己研鑽を考えると月に1度、勤務時間後か土曜日、日曜日を自己の研鑽にあてることは、授業をかえ、生徒の期待にこたえることにつながります。部活動などとの調整をして参加することも大切なことです。